

【鉾田市】 校務DX計画

【現状】

鉾田市では、令和2年からペーパーレス化に取り組んでおり、一定の成果は出てきているが、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一扫が一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) クラウドツールの未活用

鉾田市では、「Microsoft365」等のクラウドツールを活用した学習等が少しずつ進んでいるが、校務としては児童生徒の欠席・遅刻等に関する保護者とのやり取りを結ぶクラウドツールの活用が進んでおらず、電話対応が教職員の負担となっている。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

学校ではFAXでのやり取りを基本的に廃止する方針としているが、FAXでのやり取りが慣行として行われている状況のため、廃止が出来ない状況である。

教職員が学校へ提出する事務手続きはクラウド化されておらず、書類での提出となっている。また、責任者による押印等が必要である。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一扫

鉾田市では、生徒の欠席・遅刻等に関して保護者から電話で受け付けており、教職員が別途校務システムへ入力し、管理者へ報告をしている状況であり、教職員の大きな負担となっている。

【取組方針】

現状と課題から鉾田市では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) クラウドツールの整備・活用

校務支援アプリ等を活用し、保護者からの欠席・遅刻等による電話対応の削減、学校からのお便りなどの印刷・配布の廃止を目指す。それにより、教職員の日常業務の負担軽減を図ると共に、ペーパーレス化を推進していく。

緊急連絡や教育ネットワークの不具合時、FAXのほうが電子メール等より効率的な場合など一部を除き、FAX及び押印の原則廃止に向けて、各種行政機関及び学校とやり取りのある事業者に対して、市教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。

(2) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

校務支援アプリ等を活用し、保護者からの連絡をアプリで受け付け、管理者もアプリ上から確認できる仕組みを導入することで、教職員の業務負担軽減を図る。